

## はじめに

地域がん登録全国協議会第7回総会研究会は、平成10年9月4日に愛知県において開催され、前日の実務者研修会と併せて、成功裏に終了することができました。その記録集として「JACRモノグラフ第4号」を発刊することができましたこと、ここに紙面をお借りして、関係各位の方々に深く感謝申し上げます。

さて、国や地域のがん対策の策定は地域がん登録の情報から始まり、その効果評価も地域がん登録から得られる情報により下すことができるものと確信しております。本協議会の発足とともに地域がん登録の重要性の認識が全国的に広まり、厚生省がん研究助成金による「地域がん登録」研究班を中心に、研究成果を着実にあげてきました。しかし、欧米の先進諸国の地域がん登録に比べて、その量的精度が低いため、厚生省も見直しを始めております。今や、先進国日本としての名誉にかけても、画期的な地域がん登録の精度向上を目指したブレークスルーが求められております。その点に鑑み、本会では主題を“地域がん登録の精度向上のための方策”とし、制度面と技術面の両面から、地域がん登録のかかえている問題について討議しました。

本会には、国立ソウル大学医学部予防医学部門の主任教授アン・ユンオク先生をお招きし、最近になって急激な進展を遂げている韓国の地域がん登録の実状について紹介していただきました。また、大阪府立成人病センター調査部の大島明部長から、教育講演として地域がん登録の役割について解説していただき、愛知県がんセンター研究所の富永祐民所長には、愛知県の地域がん登録の歩みを振り返っていただきました。締めくくりのシンポジウムでは「地域がん登録の精度向上のための技術開発」と題して、本会の主題について十分な討議がなされました。私は今回のシンポジウムの討議内容と日本人の特異的国民性を考慮し、わが国の地域がん登録の精度を向上させるためのブレークスルーへの近道が、「がん登録とがん予防の両事業を地域レベルで同調させていくことにより、がん登録情報が地域住民のために有効利用されている、という認識を広めていくための工夫」、にあるのではないかと考えております。

本会の数週間前には米国のアトランタで国際がん登録学会(IACR主催)が開催されまして、安全な個人情報管理の問題とその技術開発という、登録精度向上の技術論より一段進んだ問題について、議論されたようであります。各地域において、医療行政としての総合的がん対策の策定、および一般住民を対象としたがんの一次・二次予防の推進、つまり、がん登録情報の有効利用を図るためには、がん罹患に関する資料収集の事業に対して全住民の理解と協力は不可欠と考えます。一方、収集された個人情報を法制度の下でしっかりと守ることは、近代法治国家における責務と考えます。がんに限らず、多くの疾病登録のシステムづくりにおいて、残念ながら日本は未だ先進国の仲間入りができないようであります。

今後はインターネットを通じて各地域、各国のがん情報に関連したホームページの情報を利用することも可能となり、日本の地域がん登録の成果が国際的に評価を受け、その情報が世界に発信されるべき時代を迎えつつあります。第7回総会研究会で討議されたことが、日本の地域がん登録の精度を向上させていくための幾ばくかの礎となり、本記録集を、世界の先進国に引けを取らない日本の地域がん登録の情報構築とがん対策への活用に、少しでも活かしていただけましたらありがたいと存じます。

(田島和雄)